共二

東四十百算

坤

特別
へ5
6590
39(2)

へ5
6590
39-2

諸国巡録

肥後

[illegible]て[illegible]と[illegible]ん[illegible]
市[illegible]て[illegible]ら[illegible]川の[illegible]、
里の[illegible]ぬ[illegible]川、[illegible]
あの池と[illegible]柳[illegible]、[illegible]
月[illegible]の[illegible]、
秋の[illegible]て[illegible]

陳[illegible]

十兩
[illegible]和
[illegible]
[illegible]
[illegible]

大海は勝る気色なりけり初日の出　一旨

漣うつや擲つの春の風　赤夕

古関さやりとらへし紙の舟　鳥暁

梅香の前栽見るあゆや立ちる雨　佳境

杉一本枯れかりける廣野かな　如翠

如月の末はよしひろしけふの月　も由

須磨の峯く菊く万の景かな　素輪

美帳りも音の如く雲も山の麓　汀亀

某奈人の居りは気きゝ安らかな　武雄

筑後

彩し草木を思ひつゝてる楼未かな　柳川 月洲

梅の香かゝりし居も馬飛の手鍋かな　花堂

寝るまもと若りして庭も深かな　風浦

雨も静りて鳥掛しかも出る　雪秀

不機子も奈寿もめでてさき夢かな　梅子

出羽

自の新しの高しやなく流れ　　芦間　松童

佐久せり沢やや硯もとの蛍　　自香

神しの多沢つく枕の郭　　月見

松も多沢て流れ流の多　　一点

行秋のあたりの空の秋　　阿遊

帆て金彩風を思すすもの八　　川雪

沢あの中て流し蓮の花　　可吏

風て一道と作ててもれし　　蛙の恨　　か舟

捷く鏡の尾を立てり時の氣　　向陽

枕てを松の竹てしし廉の子の　　文鶯

むつりう蹴くるお撫う鏡　　め流

留江の月も流れかたつ　　卜板

猿猴の多懐やの月　　和竜

り船や入江り帰て舟　　共鶴

すもくも氣松の星の光多　　四雪

風て動くよりく軍の橋　　素山

夕べ水やゆきて一尾あり、　古梅
厚金の国あてすりや虹の橋、　弓曉
閑到て流し弱春の鶯、　翠雲
曉くゝ消て坪の四ゝ　知嶋
雨の白い面の色ゝ　文呂
杉杉の影もやゝくゝや　寛呂
まゝ雨の晴ゝあいゝや　俳花
玉の川ゝ深ゝの流れ、　子諭

春秋の青ゝ旭ゝ東、　千里
ゝゝゝ読人も何ゝ　文鼎
移ゝて多ゝあひりや　巧稜川
あゝゝ多にり桃ゝ　文壽
甘ゝの紫の春ゝ陽ゝ　文考
雨中ゝて一春ゝ春の　全周
誠ゝ長ゝ一ゝ桜ゝ　月昂
ゝ鳥の優ゝ春ゝ　里色
山茶

清きを踏をゆきて春の海、　南定
遠目もさすがの桜かな、　佳元
伊勢路の海を見て立ち、　蕪雨
子荷のかなめ見る佳かな、　麓子
伊勢の山うつくしき角田原、　后橋
秋伊勢も味方なるべし　月の月、　柳子
海士のすむも角し明月数代、　子越
秋のくれ海の色の秋の色　鄙山

伊勢の海を　芋の葉の露の、　不深
伊勢一帆の立秋の秋の、　子山
古寺や角立ちの古の庫、　菊里
風のそよぐ小松の月数代、　五柱
秋の海やかすみと霧の秋の売、　文紅
霧の海をうつして三日月、　琴面
神木の松の梢の月かな　南素
宮こそ山の立ち山の葉、　虎庸

朝顔に庵の主や留守がちか、　杜由

雨となる椎の月夜や鹿の声、　桃天

川下や鴨啼し海の上、　山柳

紙帳の耳うち見えて紅葉散る　蓑島　古徽

鷺の首一もいうる砂寄の龍　同也　一毛

又起て何とむさうに鴬すゞしく　飛人

鷺の子一日は大川寒うなる　泗田　岩二

紫の流るゝ沖の上　仁かゞ伎　魯仙

吹よせて宗頓絶えし落葉かな　羽黒山　友山

月掩式松のしらへぬ年、　四月

雲となる海の底の蒼かな、　黄好

咲やむと峯の霞、　象来

入日となる人の桜薩、　桂

若竹の思ふ名か、　友松

蝙蝠や家静かし市の屋、　喜文

燕の…の庵かな、　艾

春雨や牛一匹うごかぬ
蝶鳥や雲ゆく人を追ふて
春の雨や帰る僧の尾
余花まつ寺ぬけ出る
夏の月蝙蝠の
夕立や久方の白
勝鬨や乱れて
ちまの中ゆく
手形
麦畑
岩撫
暁雲
鳥羽
丹波
三省

しら梅うつ雪のよこ風
柳ちるや御ぬぎの
月れいや打ちとる
ちしこ一地蔵の門
居魔
高麗
昌秀
四芳

同国

日数ちる春や赤ゝ
堤やゝ巨燈の上の
三河ぶりうつ
雲の門

宮国
岩し
仙
邦秀
砂雲

もとゝ[illegible]て[illegible]山[illegible]、
中[illegible]や月の[illegible]桜[illegible]
す旅[illegible]
[illegible]や[illegible]
世[illegible]
什[illegible]
[illegible]
道[illegible]

[illegible]
味噌
初栄
めも
吳服
萬屋
二尺
松竿

踊人の[illegible]を[illegible]
何と人[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]夢[illegible]
世の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

梅文
文重
牧[illegible]
後[illegible]
里益
[illegible]
一[illegible]
[illegible]

時雨来て雨をふる里や片くも蛙、　風山

橋誠　夏の雲、　久五郎

備後　花の名みえず、　色子

秋もまた鶴も異さや里の月、　寺泉

同　麻布　橋本の月ふるてしらぬ井　夫所　白里

橋本の月ふるてしらぬ井　夫所　白里

一立廣寺　寺百と　秋の夜、　月下

山寺や鶴ふる秋の鶴、　雲の鶴、　高盛

誠信　橋誠　寄　橋本の月　何水

寺に松ふる風の音　雄元

うつり色の秋の色　而文

海原やたゝなくて　秋乃雪、

雲の月　三つ月　仙　心壮

涼風の山入て時　涼夕

見せぬ海の蛙　鶏井

島の原の長うて又面白き、理的
言の葉全なる数かゝうり、書山
玄川や松の陰なる島の跡、志賀
鶏鳴や芝よりかなる高砂、吉重女 書原
小ゆるやもと金華山の雪、淀目
成る梅に笛とゝぎす豆腐、樹水
吹絮と成て小ゆる、可丹
梅素の面白き所を見る場合、仙鳳

山素元の月和も待て成、性我
月四てるめくるの果や義水、河佳 川路川
吹止めい芝ふてる小面の郭、国海
瓦山入りの迄る言さうの中 山山
取て又都に成て帰屋の月 大阪 柳山
華は鄙の迄る小面て成、鹿太
ゆるのみ面白き面白き、作師 源交
鳴鳴や老て松のかゝんん 亀四 文馬

笹の葉ふた風行らしき明月は　蘭京 秋 所文

夷はあくらし埋る山の月、　桃信

たる風の錦の露のうこく霧、　河洲

暖かり萩をゆかしし秋れ行　須磨 仙女

大分り雲とてはなし松の月　新潟 吾介

二行り須磨や似て蛍の月　剣肥 寿史

松陰に尾をふむ月のかや蝶さしく、　遠橋

縁ぬいて出れぬ牡丹の似たまかり、　知翠

雲の峯寺あ家ありまかり豆、　知存

一夢の結あきしや夜の蝉　蕪島 昌芳

錦縁や錦ちれ清ぬの梢から　福島 鳥橋

五月て浮草がや杜月　北上 水流

又とも水ほ庵のや苦まや鍋　新作 紫緑

梢ゐふたりあかれやめあもし　吉佳 一相

あまの月やおりの中て無ふ雨の川　大磨 竹山

菜みと里ふ絵ちめそし　土色 松の 曲之

只もとり鹿のとりあをぎて　保田　祝子
鶯さや合歓をとるなる二声　素堂
はつしぐれ降るや小雨や時雨　子相
竹むらさめ風ふく晴るる秋　泊船
あら中はさ面　秋の月弥八　元井
ちく来れい陣を敷　夏陣　雪舟
堂の月明り　文七　芋野
すゝ掃やまと国の竹ぬ風の子　未梅

陣を出て一時れいらぬ去の面、　知雄
馬を森をとり　桐のさりなか、　久東
月高ふ帆影深　分新　久竜
竹の秋吹うち　陸のちゝ式　見月　北洋
乙るの明りや　宮ま丸　村上　白海
宮陣陣る宮殿の勇ぬ鶴月　一止
歌竹の手鉄　むえのとか、　羽雨
信の芝よ　命やとり祭、　庚栄

新院御の歌より霞て夕の月、　梅宿
為子朕十日五首の内　鶯呼
草まくら月に問ふて夜うり、　この恋
鐘のこえ山もゆ遠し　海辺
海路帰り棹の音ふる　和歌
野牛の遠うち明ぬ　二調
小姫の梅さそ　梅香
ゆふ暮の琴の音　ちと

月をこそ　まち初ぬ　峰の松、　嵐の
夕の影や　夜の面に　今ぞ　野中の　鹿の
月の軍めいて　幾の　吉田の　秋の
しらぬ夢や　夜ふ　嘯の　律り　梧桐
花さく小人ふ　別てや　明かた　孤山
梅ちるや　庭のふ　夜の月　朱彩
朱ふの　時雨　ふる　梅本風、　中夏
竹もまた　夏ふ　稽ふ　香、　笑及

[illegible]　義文
[illegible]　[illegible]
[illegible]　知徳
[illegible]　小[illegible]　野梅
[illegible]　[illegible]
[illegible]　世九　四[illegible]
[illegible]　金[illegible]　文思
[illegible]　上[illegible]　[illegible]

[illegible]
[illegible]　山陽　東[illegible]
[illegible]　梅　[illegible]

石見

十日の梅[illegible]　面の[illegible]　北井　[illegible]　誓文
[illegible]　大田　[illegible]
[illegible]　南畝
[illegible]
[illegible]　一枝
[illegible]　金面[illegible]

我もかり葉に浮世酒見る花、　桜暁

かはづこゑる鳴やしこゑるその声、　催乾

寒え入にけむ宿や秋の雨、　李仙

梅か香や学の跡のかれ尾錦なる　京之（多　）

冬木や梅桶の手すかりに舟　句風（大田）

雲も雨や三保の松風吹返し　芦洲（出口）

こな又見出しりく神さえん、　梅塘

梅の枝や友達しき下紐の香、　五梅

武蔵

ほととぎすき鳴しや帰る雲、　以山坊（江戸）

閑積り雲は飛行さの秋、　葛洲

鎌倉の雲さく面の信、　山洋

長門

帰る鴨四手帰呉るる日和さ事　蘭暁（萩）

鶏鳴やまさらの明ぬ木立の家、　東枝

くみとも来ぬ人の呼や冬こもり、　紫山

陣と云ふ所に日ふの暮るの程、
雨降て所も雲となりふる、
柳たるまを海あり
夜ふかいもとうあむ
鄙なるて小雨のたゆ
高山ふさがれて
高尾をしる水と
入れの嶺つくりあり
雲の面、

鎌之
笠流
柳原
風俗
佳朝
遊宿
習之
冥々

杉ふるまを風のたる
けさの雪雪てをる
月ひとは来の鄙や
をるふの雪うの月の
山元も女のすや
京をおるるやあり
海ををる嶺や
海の漁ををる

杉原の程、
高尾
岩光
彩雲
雨琴
風雲
夕琴
雲雲
競笠

風の拍子にうつる松のみどりの秋、　李一
笠をぬぎ帽子の紐やゆるめ給ふ　志道
ものしりがほの学者の口ずさみ、　廣陵
世ちがひさや車とめて眺る半、　可屋
蛍やうつくしき車、　柳鳥
ゆうすずみ　扇子　枝笑
きしのうつくしきの山路哉、　古夕
置蜆　ゑのり屋や　松のり勢、　彫石

池端うつくしき　蛙の声、　花鳥
山ぶきや梅の新芽むしる水、　廣海
稚い草をとる松の星、　芝仙
引抜のうつくしきぬく麦哉、　柳枝
移り咲松を用ひて　麦里
淺黄うつくしく久米八や　蓮泉
御清い女の弁当　数山
秋の風のうつくしきすけるの　一分

月やうとて此の 緒、 歌石
きつ原やまもの井の庵のあた、 李明
なのうもとめ見ちいりもうら、 方貞
三ツ 晩 緒 ゆ や 青の ふ、 め 庵
月の宮 も 原 や 家 し ん、 ふ 板
秋の此てう 雪 ふ て 青 の 雨、 高 馬
毛 庵 の ま れ や い き み て 的 が 巻、 長 淫
石山の月 い き て ま り 宮 と ま ふ、 柳 原

掃 部 の 脚 る の も 行 う 青 の 狗、 高 遠
佐 毛 雪 う 風 し 言 ま 河 て ふ、 巻 院
松 う し 文 ま の 欲 し 庫 の ま ふ、 左 京
影 り せ や 物 う 四 の 又 く か ふ ル、 信 濃
ま ふ り き り と 新 ま や 杜 若、 姫 石
ま り 庵 や 梅 の 遠 ま る 菓 の 上、 餅 羽
風 の 色 打 ま 又 ま う ま 所 庵、 童 院
乗 ま 雪 宮 ま 狗 や 雪 の 新、 柳 山

[illegible]の日和や梅の花、長芳
菅笠も脱ぎ捨てし田植うた、由徒
[illegible]や鶯の[illegible]、柳も花、芳春
やゝ降りの[illegible]や春の雨、芭蕉
春雨や[illegible]夕かすみ、久子
[illegible]つるみもやゝ立、左白
あゝ[illegible]春雨、左面
石垣の陽炎[illegible]あるべし、喜柴

山吹や雨降る中に二月の郭、鄙兵
もの[illegible]宮の[illegible]の月夜哉、以文
陽炎の[illegible]の雨、玉游
[illegible]の[illegible]、紀京
[illegible]の[illegible]、芳雨
[illegible]と[illegible]、
雨降る[illegible]夕[illegible]の柳[illegible]、芳栖
菊[illegible]を[illegible]の[illegible]、[illegible]
石川も[illegible]やゝ[illegible]、[illegible]
柳[illegible]、[illegible]

いそかしとやみて来つゝ巨燵哉、　一朱

読残の句新しき夜の月、　素従

力いれる手のうち涼しや芭蕉稿、　花暁

際立し水の涌くり昼も聊、　鳥洋

手毎りに鷹る梅の白ひ哉、　芦錐

山寺の持鐘聴て咲り寺雪、　菅鼓

雨催ふ空と成りけり春十日、　十白

雲濁らしして柳よ見すまる哉、　呂草

啼子見文申く明石浦哉、　松花

舟の渡る月風のまゝや子規、　為之

雨の夕梅の匂ひ出る見世哉、　賈九

梅か香も月夜さる残限なり、　素従

勝敷や雨つゝ江ね見え秀の音、　素史

衰行よ雨のふりゆく塩ほたる、　保朱　甘泉

風強み野末の雲しとも絶えり、　舟木　東指

推枝も半目ゝ見るつ狆しきれ　三ろ伯　雀子

姥ヶ懸の宿 新すすき 馬の夫婦、 三夕
ぬしの爲 ほこむ 古井の蔦 蔦、 旅好
俳句 秋の月 や 時雨 陸、 め稲
人形 ゆし 沖 あり 蔦の月 信濃 士文
あこ ものかな 三 瓜 番 不京 子洗
陸 や 古さ 三 の 田 く 興、 吉春
引 新 大 移 も 色 の 一 月 分、 紀源
風 葉 の か 陸 や 三 の 夢 の 宴、 静信

峯 ひ 三 見 見 旭 や 雪 の 海 雲野 柏里
長 宋 や 葉 ま 和 の 老 山、 素碌
支 陸 ま 紅 ま 時 面 を 吟 雪 紅、 素雀
吉 面 や 唐 雪 雪 ま 山 の 腰、 可原
月 春 や 焼 下 て の ひ 蔦 の 色、 素唐
彩 紅 の 松 風 ま 面 多 雪 色 ぶ、 迫淀
夕 紅 の 庵 く 山 陸 の 紅 面 紅 紅、 羅之
山 陸 や 葉 ま 海 む 水 の 色、 春甫

都てうへて み雨こそ雪はれぬれ、孫之
井、植こ蓮はるるこそ小雨ふれ、 保之
枕竹うゑ水ゆ池の橋の、 元隆
月とともの中をふる雨こそ時雨小 蘇
山の井のあさ清しき音風柳 実入石 何素
二三日雨雲低し檜、 源鏡
曇り乃家のこなたの林の風、 高成
葉のうへ雨ふる馬、 不石

打ち捨てのこ風の雲の林の、 卜文
星ひとつこそ雲の山の、 文和
雨雲も雲の月の雲の、 山橋
夕月の雲や雨の清あり、 孔晴
月の雲一夜さを雲の、 呂聚
汐干潟雲の雲の雲、 寅字
七夕の夕風のよきの雲、 五文
唐崎の雲の二月時雨、 地浦

木曾殘雪一百ヶ日や初櫻　文思
梅咲や嘉一嘉に百結の法　元律
咲出て日数経たり雪紅　仙六
山路うあやあるこの法の面　福井　極楽
山里の雨ぬれ和の義苦ふ　明雨
和花う新ぬ出ぬり二百月　下関　遊之

周防

春の雪ふうう鶏の雪ふ　小松　賢二

青葉の舟漕ぐ方や　杜子　柳井　青葉
鶏ふう宿ふる雨の宿ふ　国女
炊けふ山ふ山ふや三日の月　左盆
新ふや青ふう山ふ三の月　雀女
焼ふ舟ふ蛍ふ月　松青
花ふ峠ふ山ふ琴ふ花ふ　果桂
少ふ月ふ月ふ舞ふ舞　芝香
月の雲ふ雲ふ雲の雲　鳳卯

寄さえしる銭戯や魚の喉、　李谷
灯火う昔なつかし春の雨、　路萁
吹く音春雨や柳の流れ川、　素緑
白妙の雪のこるすや庵の中、　栗斎
麦ころも菜の花の足跡、　月潮
星さ落る柳のつゆやふ婦ま美ふ宮　文呂
鶯や陽光のかる小紫垣　田布施 篤二
浅緑くもうとわてえる時雨哉、　旭舟

廿の花や露気に近る翁日和、　葉里
晩鐘もゆうて夢見る蝶の絵、　梅二
柳あらしの小雨と風ぬ簾の下、　子杏

武作

さむしさの鐘を鳴もし瓢栗ふるか、　高知 武川 柏鮭
しら魚や江川の渦の瀬り身め、　め流
松すゑに雅の木の石目ひまり、　大里
香緑めて冬梅り寄さる蛍薬八　梓凡

一ツ家も林うとき山路哉、不右
蓮枯て見遠やや谷の秋萩　陸奥
雨ふる縁の住ひ寂寞、　於菊
四方の秋やたゞ一ツ残はの上、　紅花
月やうたゝ寝さそふ遠さとり、　松花
面白の金の表ぬり久布哉、　笑年
風やまれぬくさぶれ遠の月、　風之
雑多信濃の見る高ぶ　青雨

ひく迄てる氷のひゞやゝ芋の角、　一琴子
菜の花も黄ばみ行り人も黄ばみ、　莫蕎麦
菜の花やたゞ低き赤の形、　魯牧
野の川ゝ有つゝ野の日影、　机書
春の面て折もたる田ゝ根、　古琴
ゆうゝ雲のうゝ也て万年蕎麦、　宗子
雪洗ひ　穂ふちゝ入るゝ、　物志
神宮や市のうゝ雲ぬ、　雪百

[illegible]
春[illegible]や[illegible]りて[illegible]る　漆、[illegible]
温石のさめぬるの時[illegible]、風や
[illegible]梅[illegible]ほく[illegible]草の花、竹人
[illegible]や[illegible]数あ[illegible]の[illegible]笑
[illegible]の地[illegible]色[illegible]る[illegible]ば、元山
[illegible]あけて[illegible]門の[illegible]、[illegible]義

白[illegible]のうち[illegible]ハ[illegible]と[illegible]め[illegible]
面[illegible]の[illegible]の[illegible]や、[illegible]月、梅井通　左頼
[illegible]の[illegible]や[illegible]、[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]れ[illegible]り[illegible]の[illegible]、　松紅
[illegible]子の[illegible]ち[illegible]ま[illegible]ち、[illegible]子由
[illegible]と[illegible]や[illegible]を[illegible]、　以者
[illegible]の[illegible]け、　三枝
[illegible]や[illegible]ふ　元の[illegible]、　さち

破すちや吉田若白の岡、逗留
きはつきい桜うかるる月釈分、雁石
岸や風ふく耕さるねいろり、平加
平のものいろう裾を車釈 掬上げ 貫之
秋の野や霜敷きりて刈ひそう、めぬ
たり雪ふる岡の芝の枯、松之
身ふるる松ふくと吉田村 右之
みとも物枯面の秋やし世の雁、一哺

ふ見の吉ふ、平家
口絵 厩ふるうもや 吉の秋 駿河 静岡
面元も遠ふ面ふ、 村宇、 膳夫
稗田吉ふ 園を月 釈島分、 御白
里篇ふきはつ入ふ 苗代田、 二竹
き一御や篇風 稗ふ刈秋の雪 赤丘 秋 吐業
吉もふふ入ふ吉の月ふ雪、 北国
多新の篇や道ふの長 佛 秋、 秋 乾坤

佐〻賀越えて
松尾の中にあり園のむら、　柳雨
曉おもや　ゆくえも　心、　百合
三月や　比良もあの　岸つゝき　鶯泊
山吹や　田うゑの　もゝ　赤里
あるや　帰雁　ゆく　春の　鈴　あり　俳迫
遠山に　もゝ　咲　まる　日　田望　春鶯
孤山の　佐る　雲　春　や　結庵　哉、　李渡

引網　もゝ　春の日　柳　か　黒崎　以　ゆ
野の　鶯　の　池　さ　春　や　柳の　雨　柳雪　俳月
もゝ　さ　ゆ　佐　う　か　ゆ　ゆ　代、　定牧
青　月　の　さ　ら　さ　ら　ひ　や　初　桜　南芝　琵　ゆ
呼　飛　〻　春　り　り　男　麻　代　名和軍　鶯　定
農　所　い　さ　ま　ま　ま　や　初　代　ゆ、　南土
春　も　中　や　山　雲　の　多　鶯　の　ら　か、　一峰
山　ふ　さ　や　雲　を　さ　ま　ま　の　水、　李雪

藤原為忠卿家にて、風山
橋菜まる毛まる出るの題、小野
うしひさの牛吼れ[illegible]月海
さみ原の雲残集のうち数なし、東原
明の月さしよりもひの都の雪、松和
[illegible]舟やたきる蘆の[illegible]、鵜飼
昨の雪の[illegible]、如月
毎月一[illegible]、[illegible]

城西行脚
於

[illegible]年の山風[illegible]、陶花
花[illegible]、鯉双
鶴[illegible]、[illegible]
家[illegible]、古松
[illegible]、沙美
深[illegible]水車、雪裏
[illegible]、小示
梅[illegible]、[illegible]

[illegible]

寝覚ては行の雪の夜かな、　枕浜

葉むらさへ茶の氷り縁、　素鶴

薄萌よ背をつける氷かな　赤間相川　迦介

奥山らし雪の中鐘か寐の声、　文松

眠られぬ顔そむくる蒲団かな、　性由

杖とりて人とかくしとる茶かな　本山三島　松里

なまよ唐辛さし筋や巻の為、　地おち　武陸

旅の味しるや康の為禅の鍵、　和泉

赤川雪や板笠いとふ庵の冬　文八井　子風

紙帯や雨の後寒き鍋しのぶ　久礼　以杏

川中や冬寒の色行くきの冬、　常河

稲つみにたまふ冬のり衛門、　狐ちら

自像巌の扇の後ろ藤の寮、　弄翁

冬の庵雨や小雨みる寒月かな　上川口　琴里

雀の首伸びた小春のわかれ、　起道

路ふ給や蜂の冬より木の毛毎　入田　自鉄

[illegible]の煙霞隠みなる　隆雄

月[illegible]の[illegible]のあらば

[illegible]

[illegible]も[illegible]て梅の[illegible]月に　坂東　野馬

[illegible]中[illegible]門の[illegible]ま[illegible]　秋京　枇杷

夕[illegible]の斜九[illegible]　[illegible]

起[illegible]ふの[illegible]の[illegible]　山[illegible]

[illegible]ち[illegible]　[illegible]

[illegible]も[illegible]の馬　秀美　[illegible]調

梅さ[illegible]や山[illegible]　伊月　橘宗

[illegible]顔の[illegible]ぬさ[illegible]　[illegible]

あち[illegible]　[illegible]　栗昌　持帆

[illegible]の[illegible]　下毛　[illegible]林

山[illegible]　大里　魚行

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

朧月かけ曲る川流れけり、　め達

春雨やひろけく梅のちる夕、　東川 古鳳

鶯のなれ心さゝふえ川ゆかりかな、　省月

かきやりて嵐や松の秀のみ、　幾月

涼しさや朱の中ゆく月の影、　杖風

鶯の都まて聞ゆるかな、　二也

伊豫

柳ゆらりや中なれ海の郷まて、　川江 子鳴

雲のりや雀かへる鼓詞翁、　良哉

備前

夏の果うつに探る夢の方、　玉山 千鶴

越前

木の芽ふしゆ吹風そよく白鷺、　福井 五朗

兵の聲や聲もきこえし荻の音、　井畦

花と見る雪ふる年あらし年の暮、　洞雲

鳥なくし木の実ふるまて林の、　呂仙

[illegible]の[illegible]、可効
己身の性をもてやすく情欲、若和
[illegible]の自ら[illegible]の性、志濃
[illegible]の[illegible]、[illegible]よ、友子
[illegible]の[illegible]、桂庵
[illegible]の[illegible]、芦刀
[illegible]、[illegible]、周士
つまり[illegible]のさま、[illegible]

[illegible]の[illegible]、神[illegible]国の[illegible]、山鳥
[illegible]り[illegible]三井の滝、花仙
目の欲のむかふ[illegible]花[illegible]、二時
[illegible]の[illegible]、[illegible]、[illegible]
目の[illegible]、[illegible]、[illegible]
時[illegible]、[illegible]、[illegible]
目[illegible]、[illegible]、雨竹
[illegible]、[illegible]、[illegible]

清水にとまらぬ秋の月涼し、　円之
深林の鐘一つ音の後まで涼し、　千勝
手さぐりやらく見えし雲母哉、　杜堂
碧潭に写る月待つ夜更哉、　玉指
峯より雁のよそやかさの雷、　西村
雲折の枝拾ふ真の為かな、　来哉
家々の小虫も動くる月　結び　光与
雨に水く聞ゆるの月哉や鐘の声、　仙長

鮮さ風も涼子の豆の郷　大理　友月
地ふし清き秋ぞうつる后の月　府中　松影
秋家の郎やおしあらし、　覚夫
風さえふ去年の山ほの花の雪、　蘭湖
京を出て俳の味や中の泉、　斧雨
七夕秋や汝郷まれ小雨、　五専
しつらふ豆とうく聖の縁、　二之
雲流し根巻り解くも牛の息、　花濱

[illegible]　星渓
夕かせうの海のすゑも清の郷、　芝秀
[illegible]　和喜
風の川原や中洲の蘆、　止動
昭の名物鮎釣舟、　南雲
馬付く[illegible]　[illegible]
美作
夏の山出わけて[illegible]　鬼扇

柳ちるよ手打[illegible]　千里
住[illegible]と本鳥出やわ[illegible]　琴松
三河
和のうら[illegible]　猿投　[illegible]
尾張
[illegible]　名護屋　[illegible]
[illegible]　里走
うまうまとそろと[illegible]　一菊

中なる雲もあらせぬ秋、　西河
みな為の法り座うる月　荒夏
まうあてこれかなまぬ地東、　雪月
鶴さくれ去て絵きてる星分、　文定
絵夢の形をゆくや秋の風、　東野
法山もひとつよりつく手の雨、　曾亭
如う座くこ羽とまるる袖恰、　鈴爽
炉ひきや心一つまる紅の風、　一甫

みな風とあつまる男紅のちる氏、　清皐
蔵まるよ古月の鶴まる、　市柯
七の実仏の位の法ける、　蜀皐
演ぶる声を聞く千年永、　米亭
雲もまるもちの下の夢のうつよ、　宗之
好しや馬の部の夢の雨下、　鈴蕉
華特やみるとかの雨つ、　蒐蕗
みる座ぬ空とかるあ、　弘の月、　鏡早

朝霧や沖へも通ふ鐘の声　下津　龜泉

泊船の名やかゝる荻　陸田　空栗

家とせし梅むかふ夜の月　海西　松哉

ものいへハ汐のさゝ波見えぬかな　松田　澤叟

さくらんぼや入日の風に長堤　東三

早咲の梅や伊勢より舟便　九門

時鐘のとまりけて山嵐　三友

黒谷の小かれ野やみの鵯しつく　仙之

伊勢

埋れし寺を一夜に蛙かな　桑名　笙枝

青梅の風に揺れ宮居かな　杜光

美濃

おのも月みよとやかましけり　伊尾　日比野杉亭　梅之

嵩朝鶉あかる月の明かな　文鳳

鹿啼て夜ハ木末の雫かな　茂椿

夕つくもあたなきあやめ赤の空し　映仙

[illegible]の中や[illegible]川　麻布　[illegible]雪
[illegible]の柳　古川　[illegible]麻
池水の[illegible]　北村　[illegible]
一本[illegible]二本[illegible]、保山
わさとなれば[illegible]　[illegible]
松の[illegible]柳　[illegible]　[illegible]
蔵いそ[illegible]山や　烟　沢　[illegible]
よそのすゐ[illegible]　[illegible]　[illegible]の梅

五尼法　[illegible]　一茶
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
七日[illegible]　[illegible]　巴湖
[illegible]　[illegible]　[illegible]
夕[illegible]　松の月　[illegible]
さそ[illegible]　[illegible]　[illegible]
秋[illegible]　[illegible]　井子
[illegible]　[illegible]　西甫

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]の国[illegible]なる[illegible]の連[illegible]
武門よりて[illegible]
[illegible]
[illegible]

住房に参詣をすゝめさゝん敬思の
位をさゝらんや社伯竹堂に他諸
壇をかゝりて御盤を頂戴きわの
後世の諸をとゝし佛の竹素をたゝ
けて竹の供養をなさを年んとなり

文政六癸未三月十日　大丘百合亭謹誌

言の葉こゝろも極や四方の月　成章

遥々作くるのふる雨　蓼志
素の夢を思ふ俤うつ屋有り　古国
改えの宮も月あさかりの　朝し
一層ゝゝや月の光　世適
なかくなて俤うつゝ枯風　斎白
ものさゝゝ俤をすゝめ　綾之
内園ハしるき神の御一図　含梅

[illegible]の風さそふ　杏柯
又病やとゝ引かゝる　芝庵
君おもかゝ伏柳を　閑雲
手家まいまゝ孫に　大病　淡雪
日つもも毎流い来ふ　麦浪
うゝゝすこゝをあ　孤松
少抜出ゝ能懐ゝ　芭蕉
ゝいゝきりよ柳盤　石志

国ゝの花ゝてあゝ市北果　五碑
馬のあゝの牛ゝ　桑摘
月の時間ゝ橋ゝ　橋角
花ゝ野ゝ北ゝ　柳園
あゝ池の禅庵北　漁山
鶯ひゝ庵北馬を　百花
石ゝ山の和ゝの　停車
初ゝゝの孫ゝ　ゝ果

西行ものがたり

若録

せきもりてらんやはるばるとはるかに　停車場通

山ぶきの花をうつしやまぶきの雨　橋爪

西北の中国風の二百我　浦山

香をしたふ思ひやゆかしき梅よ雨の二百　五破

竹藪をたづねつゝ行やまぶきの　石谷

篠林の遠おもかげや　桃の花

砂川の橋の陽ゆらぐ　小鮒釣

松風のうつるまぶしき花ぶし　芝蛍

手あらひの中ゆるむ五形の　青柳

野猫の風の長のうつる蚕の　金柳

詩をうたひつゝ松尚茅場の　孤屋

すゝきの蛍ゆらぐすみ迄の　杉園

ゆるやかなる蛍の雨　百志

塗あゆる田螺の　浦志

[illegible]や山もとめぐる[illegible]
[illegible]家[illegible]や松の[illegible]
人[illegible]屋[illegible]
[illegible]
[illegible]の笛[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]月

東海
靖之
[illegible]花
[illegible]
[illegible]
花国
[illegible]

一本の家の[illegible]
山[illegible]の庵[illegible]

[illegible]
蓼也
英

右手

文政十三庚寅閏桜月下旬写之終

東海林
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

言ぬ事あの新のうてを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

唐衣に風雅て 嘆 [illegible] 化

何うしたけてもはの泥ひ 等

右雅之一句

[illegible]

山ともの笑顔形[illegible] 鈴石

[illegible]

松の風作の[illegible] 貫之

三四

右三句

丑九月廿五日 [illegible] 奥州 松二

[illegible] 月 [illegible] 松二

[illegible] 嘉

[illegible] 三四

[illegible] 二

[illegible] 四

[illegible] 二

四

二

四

四

四

二

四

四

若殿の時代に果物もとらん
ぬしの為にとて面白ひぬし
悔さしかるべきもの絶ぬ人とあり
いまだ世の走れぬ石習
合ふもあらねども
たとへるもれすがる松竜
一枝もとるべきの月
面影もゆかぬ茶の戸の雫

二
四
二
四
ぬ
ぬ
ぬ

二ウ
浜の松つとめ毎に網の業
あ日々の市のうるはし
数々寄せられるあむ入
任免も船の鞍馬きんん
初めるべくとそのもの
墨書は牛の代掻

二
四
二
ぬ
ぬ
ぬ

右歌仙行

同じ年に為朝ちゝ秋の山　三四度

月をこそ見やまし　拾二庫　杉二

源氏物語本の実ゝ　寄事也　東如

右三ツ物